**横谷謙次,高木源,若島孔文「心理面接中の韻律の類似性が信頼関係を予測する」『第82回全国大会講演論文集』2020.1(情報処理学会,2020)pp.47-48.**

私は「相槌から納得度を予測すること」を卒業研究テーマとして検討中である。納得とは今井ら（2016）が「ある事象に対して，自分のもつ価値や自分への利益を明確にすることで理解を深め，認知的にも感情的にも受容した状態であり，主体的かつ他者との信頼関係のなかで生み出される流動的な状態」と定義している。

そのため、今回は「信頼」と韻律情報の関連を検討した文献を調査した。横谷ら（2020）は、構造化臨床インタビューのデータを用いて、休止間単位(IPU)と発話単位(LUU)での音響同調を比較し、精神科面接中の信頼をより良く予測できる単位を検討している。その中で、調査協力者とセラピスト間のRMS、モーラ、MFCCの同調とセラピストへの信頼の高さに関連があることを見出している。RMS、MFCCについて、意味をインターネットサイトで調べたところ分析に使用するスペクトルを指していると思われた。

　横谷ら（2020）の文献から、「信頼」と韻律情報にも関連があることがわかった。また横谷ら（2020）は、異なる性別のペアの音声を分析に使用している。発話ターンを明確にするための工夫であり、研究に使用するデータを選定する際の参考になった。

これまで「同意」、「信頼」と韻律情報の関係について調査を行ってきた。次回は今井ら（2016）の納得の定義にある「理解」「受容」「主体性」と韻律情報の関係について調査を行う。

参考文献

今井芳枝,雄西智恵美,板東孝枝「納得の概念分析─ 国内文献レビュー─」『日本看護研究学会雑誌』39.2(日本看護研究学会,2016)pp.73-85.